

2016協力隊まつり報告

小島海治(H10-1/トンガ/音楽)

4月23日(土)と24日(日)の2日間、昨年と同様 JICA 市ヶ谷で行われました。1日目の参加者は、小島、小林、渡辺の KOCV スタッフ3人と、豆の木の杉山さんの4人。2日目は、小島、小林(午前中)、午後からは渡辺、入江さんおよび杉山さんが全日協力してくださいました。さて、今年の協力隊まつりは、全く同日2日間に代々木のフェスタと重なってしまい、お客さんの数が去年より少ないということで、我々のブースにも去年よりお客さんが少ないと感じられました。しかしながら、コーヒー豆の売上高は昨年より倍増し、鉛筆削りの方も昨年とほぼ同じ数に相当する数を売り上げることができました。中には鉛筆削りを見せると「去年買いましたよ」と行ってくださる方が何人もいらっしゃいました。ガガのたわしと着物生地の小袋は残り数枚で売り切れるので、来年の販売品目は杉山さんのコーヒー豆と鉛筆削りだけになると思います。今後このようなイベントには可能な限り協力隊ナビと平行して行い、また、杉山さんのフェアトレード商品の売りに協力し、神奈川県活動をアピールしながらやっていこうと考えています。



よこはま国際フォーラム2016

～スポーツを通じての多文化共生プロジェクト～

青山啓二

(H22-3/ソロモン/体育、クラーク記念国際高等学校教員)

はじめに、2月7日(日)のよこはま国際フォーラムにて私たちが取り組んでいるプロジェクトをお話しする機会をいただき感謝申し上げます。

クラーク記念国際高等学校横浜キャンパスは、通常の全日型の高校と比較すると、生徒層・カリキュラムの面で異なる部分があり、創造性溢れた特色のある学校です。生徒には、外国籍を持つ子、不登校・中退の経験がある子などもあります。そして、カリキュラムは9教科の授業だけでなく専攻やゼミといった授業もあります。

どこか自分に自己否定感がある・・・そんな生徒達に「みんな違っていい、それぞれの持つ個性に気づき、それを発揮・尊重し、自分らしく生きて欲しい」という理念のもと、私の所属する健康スポーツ専攻とNPO 法人未来をつかむスタディーズとの協働による授業プログラムが昨年度よりスタートしました。

昨年度は、講演ワークショップ型授業として、スポーツの力を活用し、他分野で活躍されている方々をお呼びし、授業をしていただきました。そして、今年度はより生徒達がアクティブに活動していける授業を創造していこうと創造実践型授業と題し、タイでの「スポーツを通じた国際協力～次世代につなぐ多文化共生のバトン～」プロジェクトを考案しました。

スポーツには様々な可能性が秘められており、JICA では教育・健康・公衆衛生・HIV/エイズ・環境・平和構築・経済開発・紛争解決・民主化教育・ジェンダー・難民/国内避難民の分野においてもスポーツが活躍できると謳っております。



このスポーツの力を活かし、本プロジェクトはタイ南部のパンガー県において、生徒企画による『タイ人・日本人・在タイビルマ人混合スポーツ交流会』を実施する計画でいます。多文化共生は、おそくどの国々でも共通の課題として挙げられるのではないかと思います。今回は、タイでスタディーズ、研修等を企画・実施している PLC という団体からの、上記の場所で、多文化共生の課題を、スポーツを切り口に解決の糸口を見つけられないかという提案からスタートしました。

このプロジェクトを通して、生徒・タイの若者が視野を世界へと向け、異なる価値観を認めることができれば、自らの存在価値をも認められることにつながるのではないかと考えています。そして、これが多文化共生を築き上げる糸口にもなるのではないかと考えています。

今日本では2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた動きが盛んになっています。スポーツを通しての国際協力も注目を浴びてきています。その中で、レガシーという言葉があり、後世に何が残せるかというのが一つの課題として挙げられています。このプロジェクトに関わっている私たちは、多くの子どもたちが自分らしく生きられるきっかけをスポーツを通して伝え、またスポーツの力を体感してもらうこと、これが私たちの考えるレガシーだと考えております。プロジェクトもまだまだ、企画途中ではありますが実現し、またご報告できればと思います。

協力隊ナビ

藤原久美(H21-4/マラウイ/エイズ対策)

2月6日(土)、7日(日)、JICA 横浜で開催された横浜国際フォーラムにて、協力隊ナビを実施しました。

「協力隊ナビ～協力隊経験者と語ろう～」は、青年海外協力協会と各地のOB会により全国で開催されており、青年海外協力隊事業への理解を深め、応募のきっかけが生まれることを目的としています。

青年海外協力隊に興味がある、経験者の話を聞きたいなど、2日間に渡り高校生・大学生を中心に相談がありました。中には中学生の参加もあり、若い力の強さを感じました。私自身、協力隊への応募を考えたのは社会人になってからでしたので、「しっかりしているなあ」という印象を受けました。

今後も神奈川県内の国際協力イベント等にて、OB会による協力隊ナビを予定しています。青年海外協力隊へ興味を持つご友人のお誘い、またOBの皆さんは相談員としてのご参加もお待ちしております。

神奈川県青年海外協力隊支援協会の設立総会に出席して

江越健太郎(H21-3/グアテマラ/感染症対策)

2月13日(土)に、JICA 横浜にて青年海外協力隊支援協会の設立総会が開催され、KOCVも招待を受け、小生、中西事務局長、霜村会計担当ほか、スタッフ、運営委員が参加しました。神奈川県は、全国で唯一県レベルでの「協力隊を育てる会」が発足していなかった県であり、この日をもって全都道府県に育てる会という長年の関係者の目標が達成されることになりました。設立総会には、黒岩県知事や支援協会の母体となる星槎グループ・宮澤会長をはじめ、多くの関係者が出席しました。また、総会に引き続いて懇親会が開催され、関係者同士の親睦とともにその門出を祝いました。具体的なことはこれからですが、今後は、KOCVと青年海外協力隊支援協会とが両輪となって、青年海外協力隊の参加促進、隊員の派遣中や帰国後のサポート、事業の更なる理解の浸透を図っていくことが期待されます。

ようやく、神奈川県に育てる会、発足！

はじめまして

～神奈川県青年海外協力隊支援協会から～

小泉 博

(神奈川県青年海外協力隊支援協会 事務局長)
(星槎グループ本部 国際室室長)

神奈川県青年海外協力隊支援協会(会長、宮澤保夫)は、「協力隊を育てる会」の一員として今年2月に設立されました。青年海外協力隊は、隊員の皆様の精力的かつ積極的活動により、開発途上国の国づくり、人づくりに草の根レベルで大きな貢献を果たしてきました。近年の財政赤字でODA予算が削減される中、「顔の見える国際協力」として国際社会における日本のプレゼンス、ステータス向上になくてはならない存在となっています。

反面、隊員の皆様の貴重な経験・知見は、国際化が急速に進む現在、日本社会そしてこの地元神奈川にとり、大きな財産でもあります。私ども「支援協会」は黒岩知事を顧問に迎え、地元財界の指導者も理事に就任いただいておりますので、隊員OBの皆様と協働して、地元活性化のため努めて参りたいと考えております。